

森田千世子 ちせう 歌人。安政四年十一月二十八日常陸國水戸生れ、昭和二十一年十一月二十日歿（八五七—一九四七）。本名千世。號香雪。青山延壽の長女。兄と共に漢學、詩文を父に學ぶ。明治五年樂家上京、築地の上田女學校、報國學舎、同人社女學校を經る、二十一年女子師範學校卒（第一回生）。翌年千葉縣官長森田龜之助と結婚、四人の子女を儲けた。長女はエスペランティスト佐々城松榮、長男は詩人青山郊江、次女は評論家山川菊榮。また和歌の他漢詩も作した。

歌集『松華集』（昭和十七年十一月二十五日青山延壽刊）。山川菊榮の「幕末が戸學者の娘」（家庭新聞社編輯河鍋祐岐の母や詩の『昭和十六年十一月二日家庭新聞社出版部所収）、『女一代の記』（昭和二十一年刊、うち『おんな一代の記』四十七年一月、二十七日平凡社「東洋文庫」）がある。

